

平成30年7月12日  
(資料提供)

(事務担当)  
所属名：農林総合研究センター  
農業試験場 総合研究部  
病害虫防除室  
直通：257-6972

## 平成30年度病害虫発生予報第4号について

今後、発生が予想される、水稻、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生時期や発生量、防除上の注意事項などを掲載する。

1 予報期間 7月中旬～8月上旬

2 予報内容

### (1) 水 稻

**穂いもち**の発生はやや少と予想される。出穂前後の防除は必ず実施すること。また、葉いもちの発生地域では、出穂前後の防除後も注意深くほ場を観察し、さらに進展が見られるようであれば追加防除を実施する。

**紋枯病**の発生は平年並と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

**斑点米カメムシ類**の発生は多と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病害虫発生予察注意報第1号（平成30年7月12日付）参照】

**コブノメイガ**の発生はやや多と予想される。今後の飛来状況によっては多発するおそれもあるため留意する。

**ツマグロヨコバイ**の発生はやや多と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

### (2) 大 豆

**ウコンノメイガ**の発生はやや多と予想される。7月6半旬に1茎あたり葉巻数が6個を超えた場合、直ちに防除する。

### (3) 果 樹

**ナシ黒星病**の発生はやや多と予想される。降雨前後の防除を徹底する。

**カメムシ類**は多と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

(4) 野菜・花き（さつまいも、やまのいもを含む）

**軟腐病**の発生は多と予想される。作業中は作物を傷つけないように注意するとともに、害虫防除を徹底する。

**スイカつる枯病**の発生はやや多と予想される。ほ場の排水に努め、降雨前後の防除を徹底する。

**アブラムシ類**の発生はやや多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**ハダニ類、アザミウマ類**の発生は多と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

**コガネムシ類**の発生は多と予想される。防除適期は7月下旬から8月上旬である。

※病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。